

千田北遺跡現地説明会

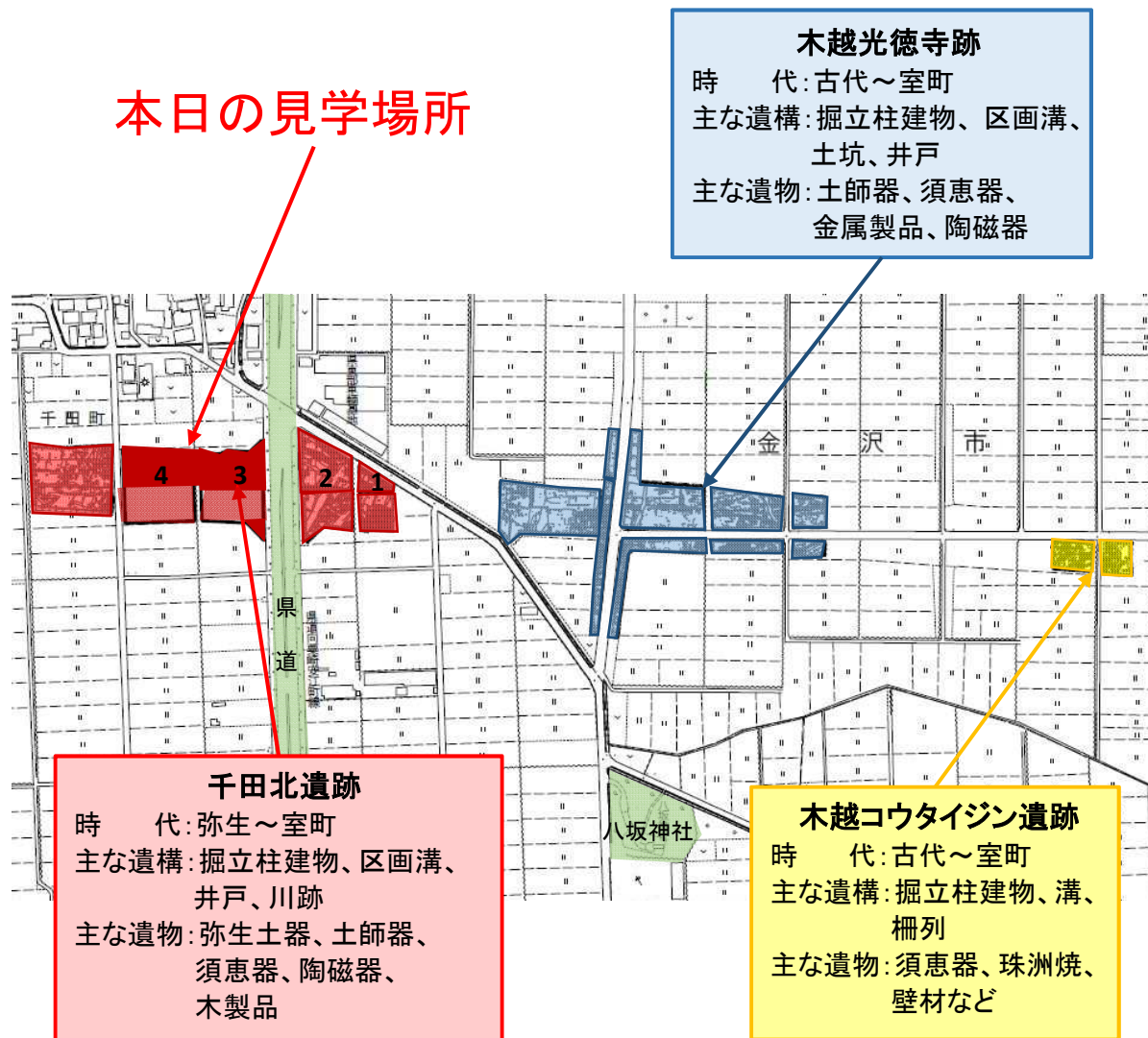
平成29年10月9日 金沢市埋蔵文化財センター

○千田北遺跡の発掘調査について

| | |
|------|---------------------|
| 調査地 | 金沢市千田町地内 |
| 調査期間 | 平成29年4月～平成30年3月(予定) |
| 面積 | 約6,000㎡ |
| 主な時代 | 弥生・古墳・奈良・平安・鎌倉・室町 |
| 概要 | |

千田北遺跡は、金沢市千田町にある遺跡です。平成26年度に行った試掘調査(遺跡があるかどうかを地面の一部を掘ってみて調べる)によって見つかりました。本日見学する約1,800㎡のほかに、この西側の3,800㎡、東側の4,100㎡をすでに発掘しました。今後は、南側の調査地を発掘する予定です。今回の調査は、海側環状道路を造るにあたって、遺跡が壊される前にそれを記録するために行っています。周辺では「木越光徳寺跡」や、「木越コウタイジン遺跡」も発掘されました。

○これまで調査された周辺の遺跡



○今年度の調査で見つかったもの(1区・2区)

本年度は県道を挟んで向かい側の1区と2区の調査を完了しました。遺構については、集落や屋敷の境目を区切る区画溝や井戸などを発見しました。遺物については、珠洲焼や加賀焼、中国製の白磁などの陶磁器のほかに木製品や漆器、金属製品も出土しています。



(参考) 矢を射る那須与一

井原市観光協会
<http://www.ibarakankou.jp/data/DB022/DB022.html>

1区からは、矢柄(やがら)が付いた鏃(やじり)が見つかりました。先が二つに分かれ、内側に刃のついた雁又(かりまた)と呼ばれるもので、射られたときに傷口を広げる形状をしています。

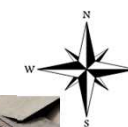


2区の西端からは、70cm四方ほどの大きさの井戸が見つかりました。縦板を方形に組んだ枠の中に、曲物で作られた井戸枠がありました。



2区の西側からは、水を通すための木製の樋(と)いが3本出土しました。上部にはふたがついていて、50cm間隔で仕切り板がついていました。

○ 千田北遺跡遺構平面図(4区)



★ 竪穴住居の跡 (古墳時代)

調査区の西側からは、約4.5m四方の竪穴住居の跡が見つかりました。中からは多数の土師器が出土し、四隅には柱の跡も発見されています。



竪穴住居全景(土師器が残る)



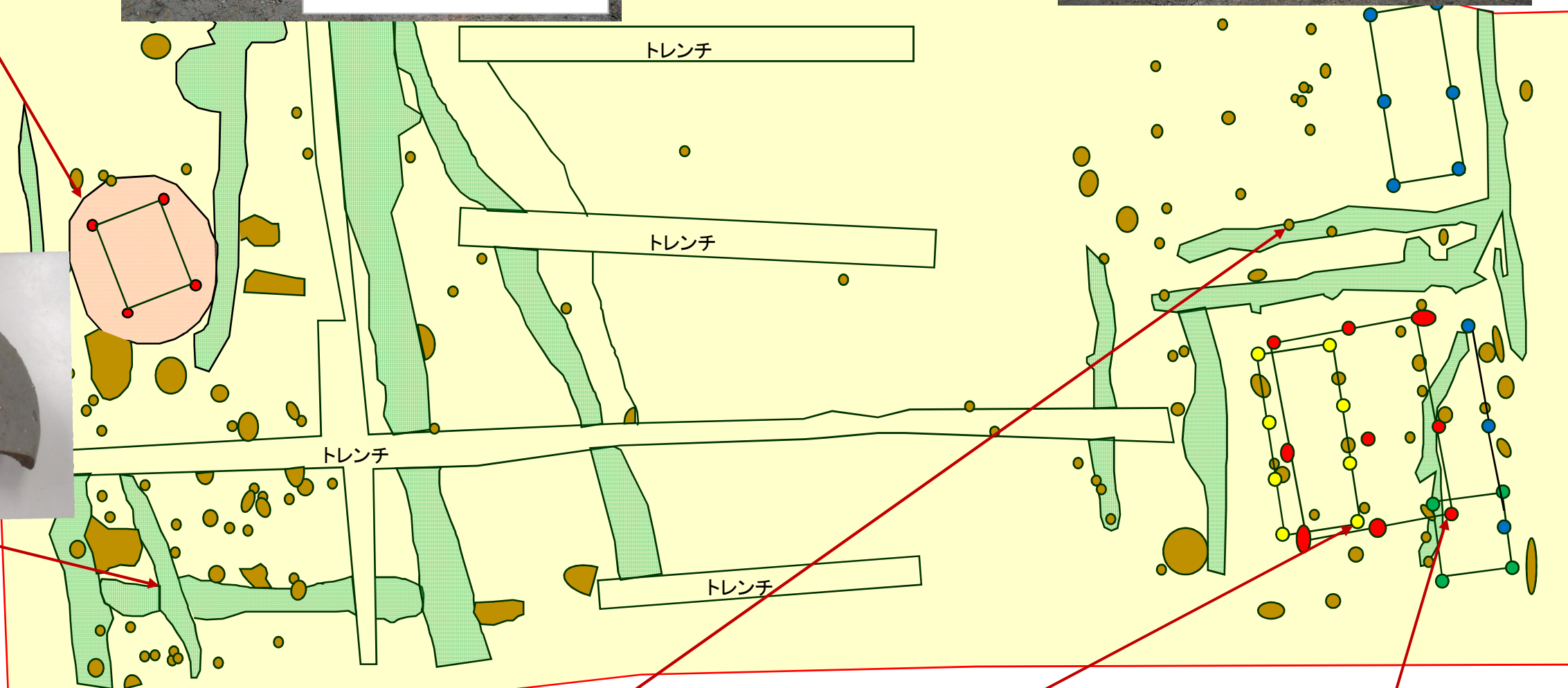
竪穴住居から出土した土師器



竪穴住居全景(柱穴が見える)

★ 「倉」の墨書 (古代)

西側の溝からは、墨書で「倉」と書かれているように見える須恵器が出土しました。



○ 凡例

- 溝・川跡
- 建物跡
(黄・緑・青色も同様)
- 土坑・ピット(穴)

★ 柱の残る柱穴 (中世)

調査区からは建物跡とみられる穴が多数発見されました。特に東側に集中して見られます。中には、写真のように中に木の柱が残るものや、建物の土台として柱の下に設置する「礎板」もありました。



○ 千田北遺跡遺構平面図(3区)



★ 柱の残る柱穴 (古代・中世)

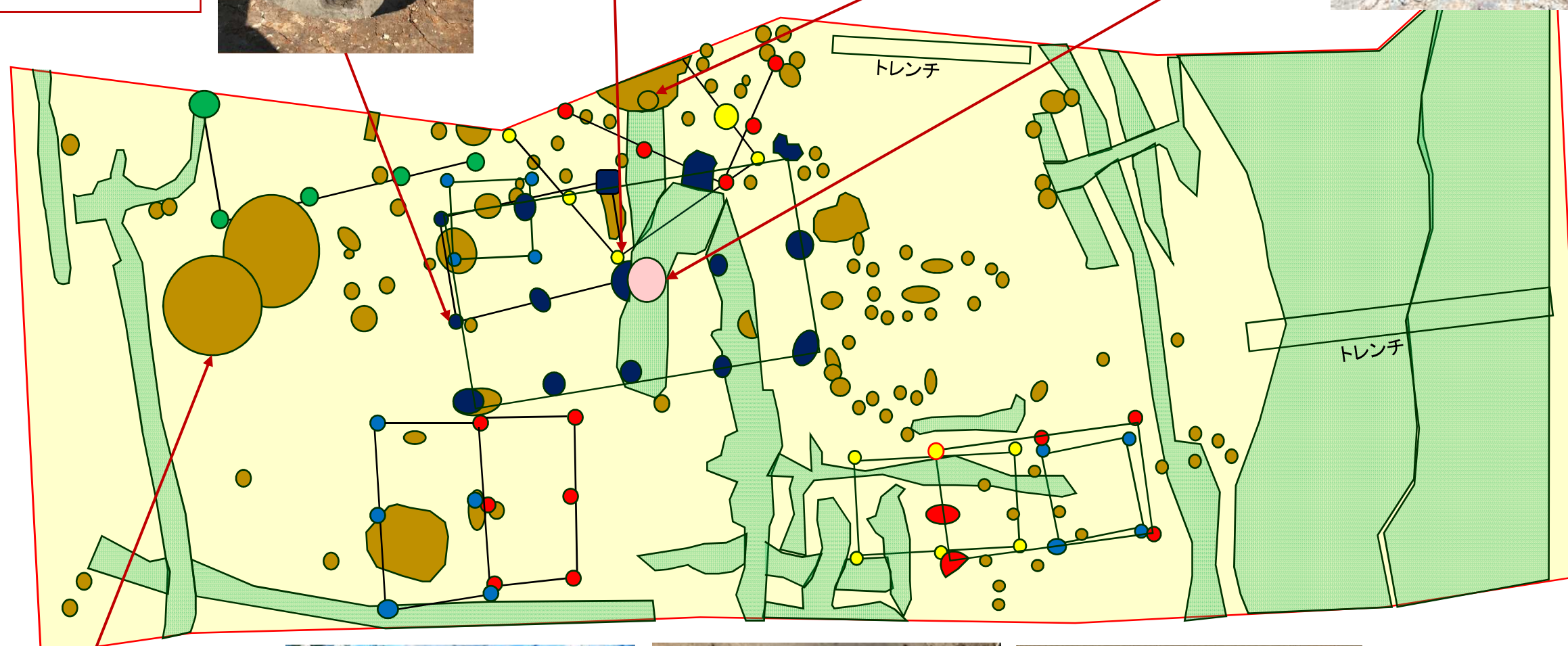
調査区では、中世の掘立柱建物の柱穴とみられる穴が多数見つかりました。その中には、柱がそのまま残っている穴もありました。

また、濃青で示した建物跡は、東西4間(約9.2m)×南北2間(約5m)の規模があります。ほかの建物跡よりも大きく深い穴からなっており、古代の建物の跡ではないかと考えられます。



★ 井戸 (中世)

曲物を二つ重ねて作られた井戸が発見されました。直径は65cmほどで、曲物を支えるように外側に縦板も残っています。



★ 網代(あじろ)製品 (中世)

二つ並んだ大きな土坑の西側からは、70×60cmほどの大きさの網代製品が見つかりました。用途は今のところ不明ですが、きれいに編み込まれている様子が分かります。なお、同じ土坑からは漆器碗なども見つかります。



土坑から出土した漆器

○ 凡例

- 溝・川跡
- 建物跡
(黄・緑・青色も同様)
- 土坑・ピット(穴)